

－ 第67回 日本チベット学会大会記念 特別展観 －

青木文教・多田等観

チベットに学んだ先人の足跡



会期：2019年10月19日(土)～10月20日(日)

会場：龍谷大学大宮学舎 本館1階 展観室

時間：10月19日(土) 12:00～18:00 (入館は17:30まで)
10月20日(日) 9:00～13:00 (入館は12:30まで)

大宮図書館 2019 年度特別展観

青木文教・多田等観

チベットに学んだ先人の足跡

特別展観の開催にあたって

龍谷大学大宮図書館では、第 67 回日本チベット学会大会が、本学大宮学舎で開催されることを記念して、特別展観「青木文教・多田等観～チベットに学んだ先人の足跡～」を開催いたします。

青木文教(1886～1956)、多田等観(1890～1967)は、いずれも西本願寺の僧侶であり、第 22 代宗主であった大谷光瑞(1876～1948)に才覚を認められた人物でした。文教は1912年、等観は1913年にそれぞれチベットに入国し、チベットの仏教文化に触れ、チベット仏教に関する深い知識と膨大な文献や資料を日本にもたらしました。その一部は、龍谷大学大宮図書館に所蔵され、学習や研究に役立てられています。

今回の特別展観では、文教が旧蔵していたチベットラサ市の地図である「ラサ鳥瞰図」や等観が将来した「デルゲ版チベット大蔵経(カンギュル)」をはじめとする資料を展示いたします。展示資料を通じて、チベット仏教の知識を日本に持ち帰るために力を尽くした文教・等観の足跡と今日のチベット研究に繋がる流れの一端を知っていただければと思います。

2019年10月 龍谷大学大宮図書館



ひみつのくに ちべつとゆうき
 1 秘密之國 西藏遊記

1冊 青木文教述 1920(大正9)年内外出版株式会社発行 19.2×13.5cm

本願寺第22代宗主大谷光瑞師(1876~1948)に抜擢され、ダライラマ13世の弟子としてチベットに留学した青木文教(1886~1956)の著作である。青木が滞在した1913年から1916年までのラサの記録を中心として、その前後の状況が写真や地図とともに記録されている。帰国後、大阪毎日新聞紙上に「秘密の國」と題して連載され、1920年に京都市の内外出版株式会社より出版されたものである。

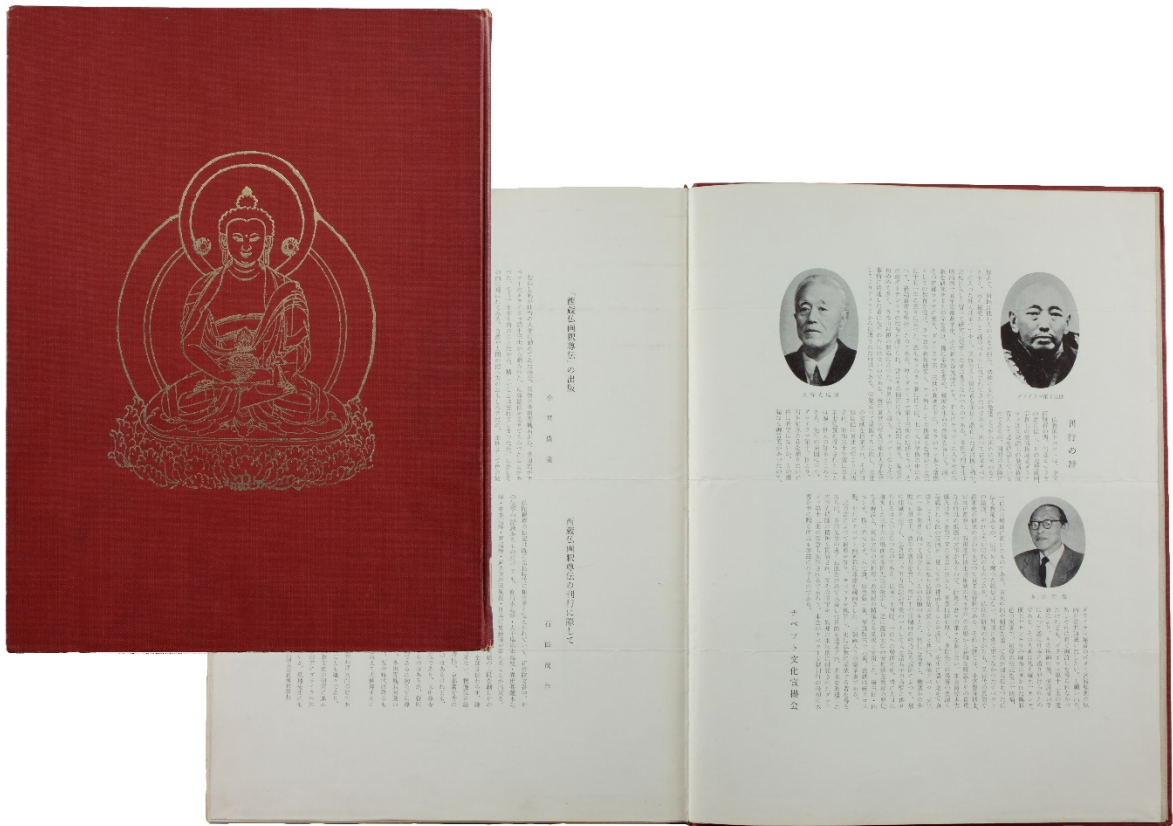


2

あじあたいかん あおきぶんきょうさつえいしゃしんしゅう
亜細亜大観（青木文教撮影写真集）

1冊 亜細亜大観社編 1927（昭和2）年亜細亜大観社発行 23.0×28.0cm

写真と解説から成る写真帳である。発行は、中国大連市の「亜細亜写真大観社」となっている。「西藏印畫の刊行に就て」によると1927（昭和2）年3月に刊行が開始されたようである。6回発刊されており、全回に「説明 青木文教師」、「西藏の思ひ出 同氏」が掲載されていて、青木自身がチベットで撮影した写真に解説を付している。

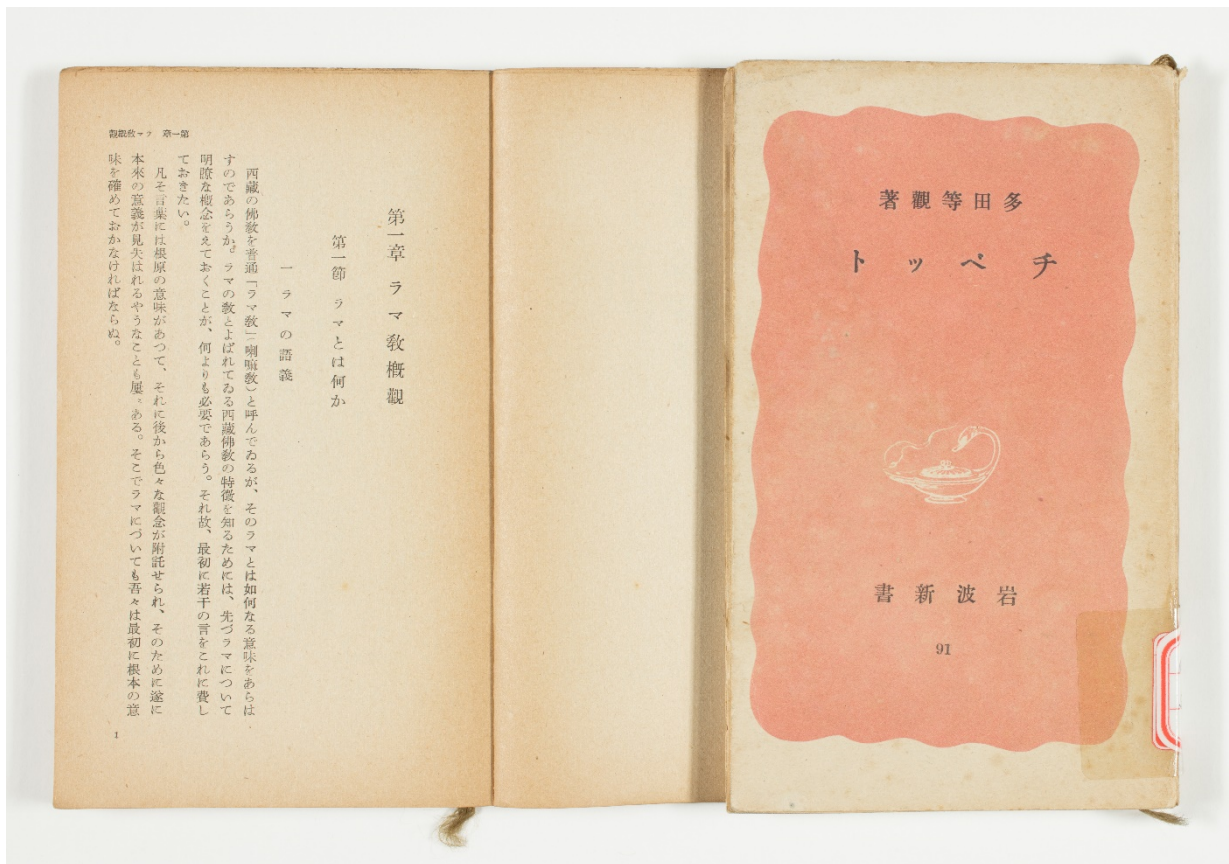


3

ちべつとぶつがしゃくそんでん
西蔵仏画釈尊伝

1冊 多田等観編 1958（昭和33）年チベット文化宣揚会発行 34.4×25.9cm

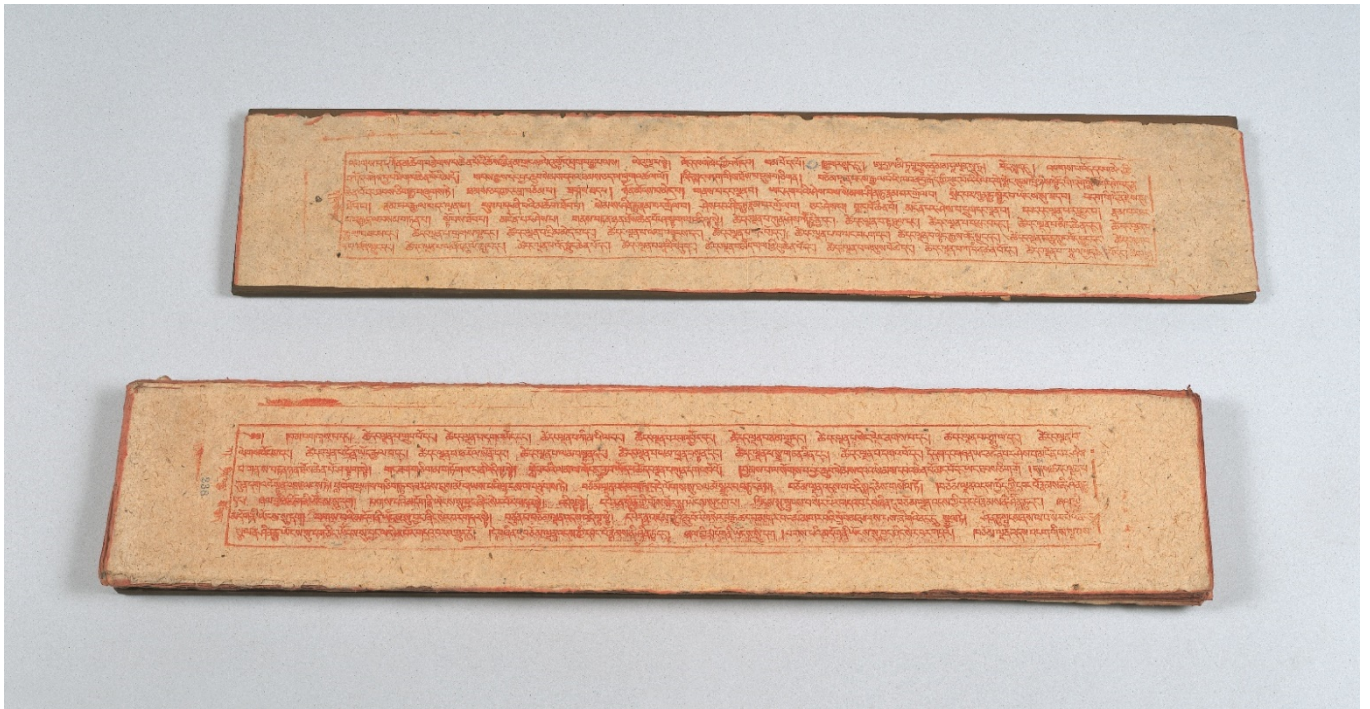
ダライラマ13世の遺命により、多田等観に下賜された釈尊絵伝を刊行したものである。多田等観自身が、24幅の絵伝にある108コマの場面から特に重要な36コマを選定し、龍谷大学教授（当時）であった芳村修基が解説を加え、序文・解説の英訳を東京大学助教授（当時）であった木村修一が行った。



4 チベット

1冊 多田等観著 1942（昭和17）年岩波書店発行 17.5×11cm

1913（大正2）年から1923（大正12）年にかけて、大谷光瑞師の命により、ダライラマ13世の庇護の下、チベット仏教の修業を積み重ねた多田等観（1890～1967）による著書である。岩波新書として刊行されたが、多田等観が10年間修業したチベットの国情について、チベット教の概観や歴史、チベットの自然、人々の生活や言語、政府や政治などの項目に亘り、記されている。当時のチベットの状況を知ることができる1冊である。



5 デルゲ版チベット大蔵経

チベット 1742年開版 紙本 木版 12.3×63.6cm 他

本資料は、大谷光瑞師の命を受け、ダライラマ13世治下のチベットに10年間留学した多田等観が将来した資料の一つ。チベットでは、仏典をカンギェル（仏の教えの翻訳[仏説部]）とテンギェル（註釈書の翻訳[論疏部]）に分類する。本資料は、カンギェルであり、テンギェルは東京大学に蔵されている。内容については、インド仏教最後期の密教経典が多数収蔵されているという特徴を持っている。



6

ざんげさんじゅうごぶつぞう

懺悔 三十五 仏像

チベット 19-20世紀 綿本着色 65.0×46.6cm

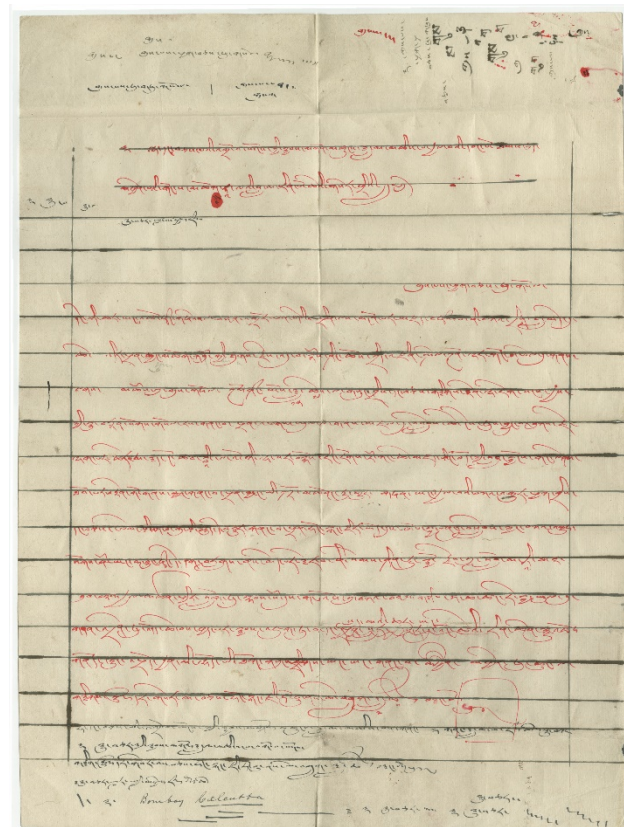
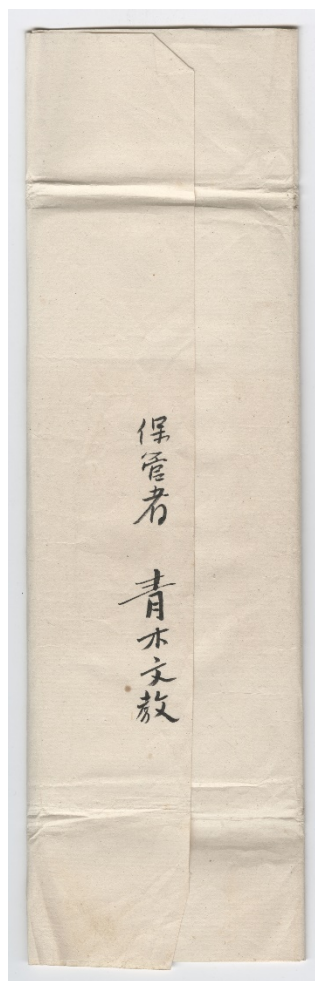
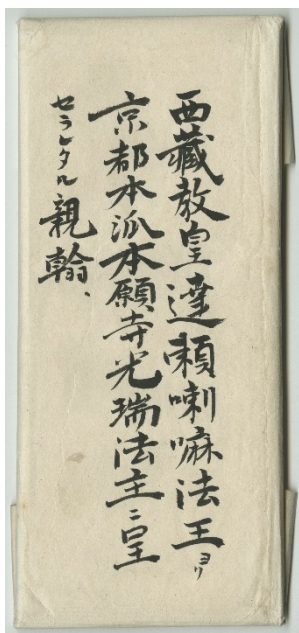
触地印しょくちいんを結んだ釈迦如来が中央に配されたタンカ（軸装仏画）である。触地印は、釈迦の印相の一つで、降魔ごうま成道じょうどうの場面を表している。坐像で、右手を下に伸ばし大地に触れ、左手に托鉢たくはつの鉢を置いている。周囲には、様々な印相の三十四の仏が描かれ、この像は懺悔の法会の際に本尊として用いられる。「懺悔三十五仏」といわれ、罪を犯した者が三十五の如来を観想しながら犯した罪を省みる様子が説かれる。



7 ちょうかんず ラサ 鳥瞰図

チベット 1905-1915年 紙本淡彩、墨書 168.0×134.0cm

1905年から1915年までのラサ市を鳥瞰的に描いた地図で、青木文教が滞在した1913年から16年にかけてのラサの状況を示す貴重な資料である。青木の甥にあたる故青木正信氏から龍谷大学に寄贈された。地図上方が東を示し、地図上部中央にトゥルナン寺（チョカン寺）、左上にラモチェ寺、左下にポタラ宮、右に流れている川はキチュ河である。また鳥瞰図の下に、チベットの位置やラサの位置を示す、4枚の地図が切り貼りされている。



8

ダライラマ 親翰稿

しんかんこう

チベット 20世紀初頭 紙、インク 51.8×38.0cm

チベット語で書かれた書簡の草稿である。「^{ちべつときょうこう だらいら まほうおう}西藏教皇達頼喇嘛法王ヨリ
^{きょうとほんばほんがんじこうずいほうおう てい}京都本派本願寺光瑞法王ニ呈^{しんかん}セラレタル親翰」「保管者 青木文教」とある。本文はチベット文字の草書体で朱書されている。これは、おそらくダライラマ13世（1876～1933）から本願寺宗主であった大谷光瑞師に書簡を送るに際して下書きとして書かれたものであろう。右下の四角の部分には、ダライラマ13世の御璽が入ることが想定されていたと思われる。



にゅうぼだいきょうろん

9 入菩提行論

チベット 19-20世紀 紙本墨摺 木版 8.0×32.0cm

本資料は、インド大乘仏教の論書『入菩提行論』のチベット語版本である。本論書は、インド中観派の論師、シャーンティーデーヴァ（Śāntideva 690～750頃）の主著であり、8世紀前半に著され、9世紀初頭にはチベット語訳されている。現存する諸テキストの中で、敦煌出土のチベット語写本が最古形を残す「初期本」であることが指摘されている。



まよめん
10 魔除け面

5点 時代不詳 砂岩製 将来地不明 高さ16×幅15×厚さ5.7cm

砂岩製とみられ、その将来地と用途は不明である。中国四川省阿壩^{あばぞうぞく}蔵族、羌族^{きょうぞく}自治州松藩県や茂県の民家の門に1mに満たない高さの砂岩や石灰岩による角柱に^{へきじゃ}辟邪を彫った門神をたてる羌族の民族的慣習があり、本面も取り付けの穴、および図像的な共通性から魔除けの類ともかんがえられるもので興味深い資料である。



にほんちべつとがっかいかいほう

11

日本西蔵学会会報

1冊 日本西蔵学会編 日本西蔵学会発行 25.8×18.1cm

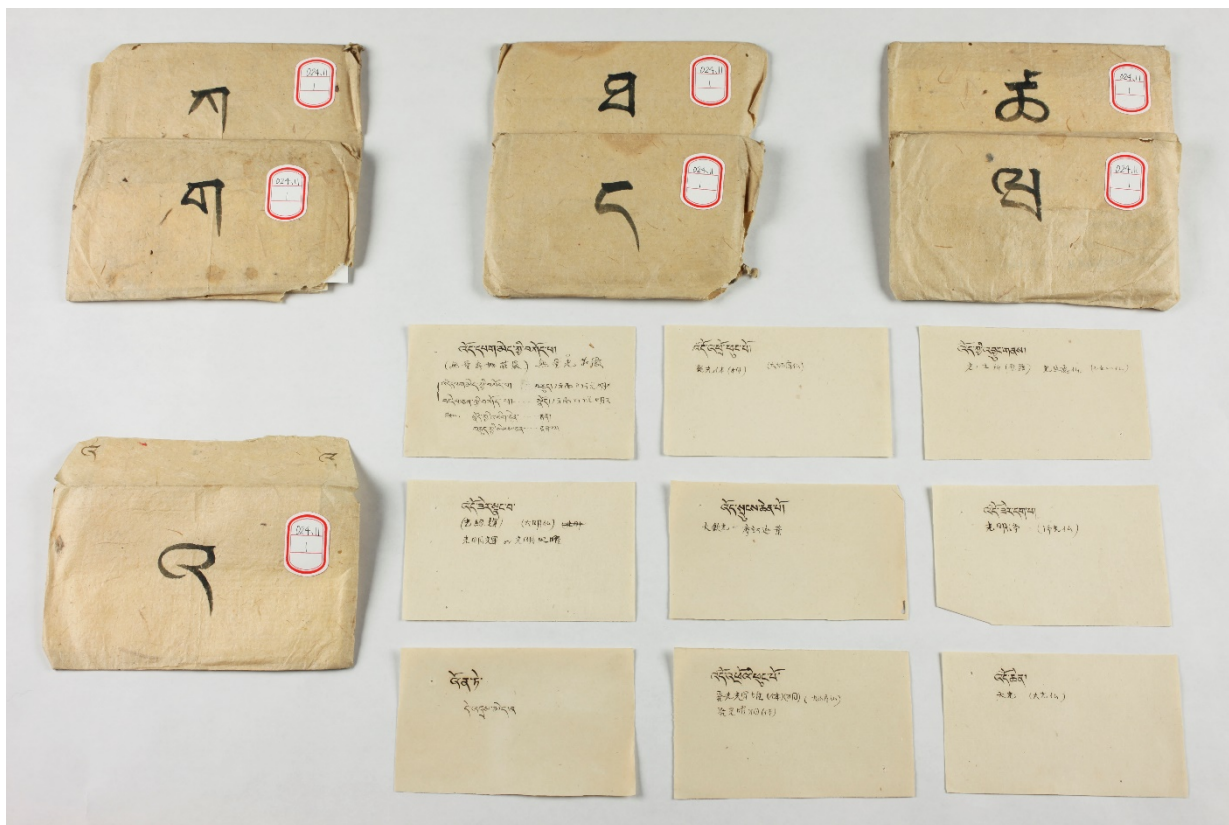
日本チベット学会は、仏教学・歴史学・言語学などの方面からチベットに関する学術研究をおこなう者が横の連絡を持つことによって、より一層の研究成果をあげようとの機運から1954（昭和29）年設立された、世界で最も古いチベット学会である。本書は、学会の会報誌として、学会の設立時より発行され、60年以上経過した今日も続いている。展示されている会報は、創刊された第1号から第20号までを合わせて製本したものである。



12 青木文教手帳およびメモ帳

6冊 1911-1916年 ノート、インク 13.7×7.9cm 他

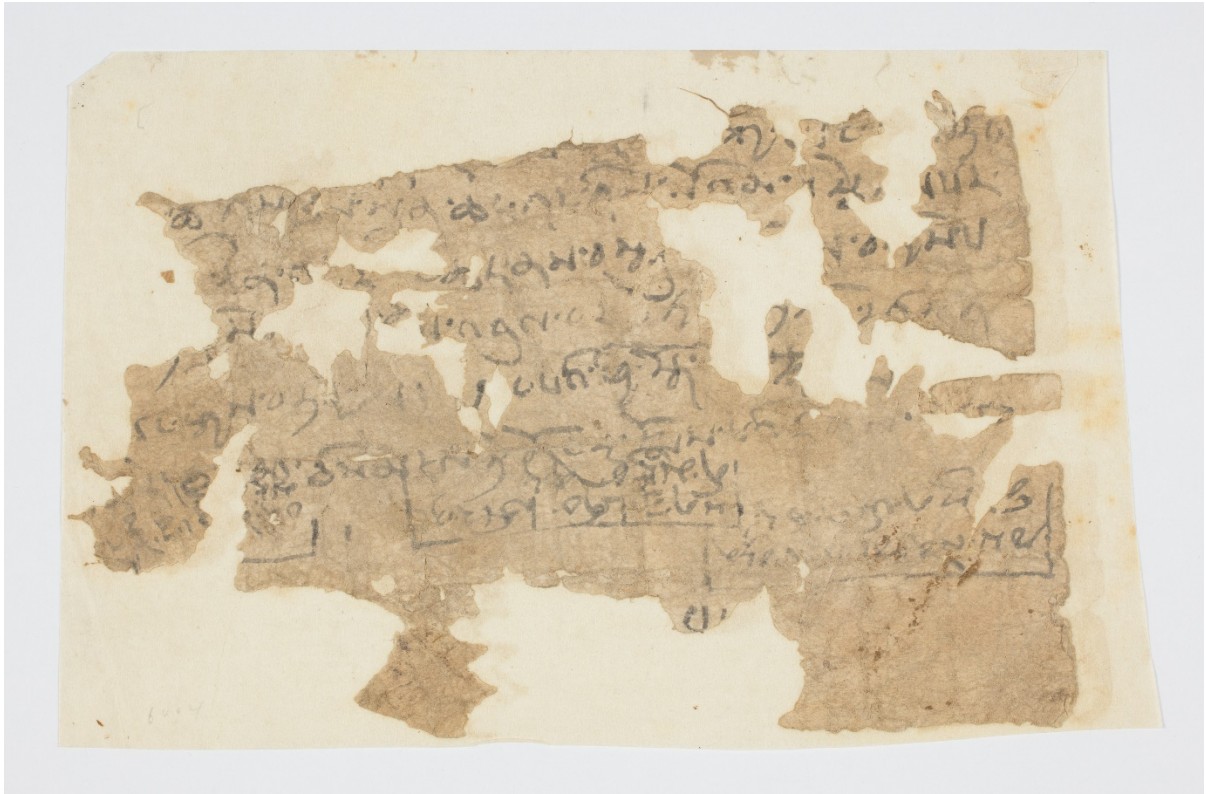
青木の使用した手帳およびメモ帳である。6冊のうち4冊は、“THE ‘WELLCOME’ PHOTOGRAPHIC EXPOSURE RECORD AND DIARY” (BURROUGHS WELLCOME & CO. LONDON)であり、1912年から1914年と1916年版があり、黄緑色の装幀^{そうてい}である。ここには青木のラサ滞在の自筆メモが記入されている。旅行の準備品や、日本の二楽荘^{にらくそう}からラサへという旅程、チベット暦との対照やチベットの気候などが記されている。



13 チベット語語彙カード

チベット 20世紀 紙、インク 8.9×15.4cm 他

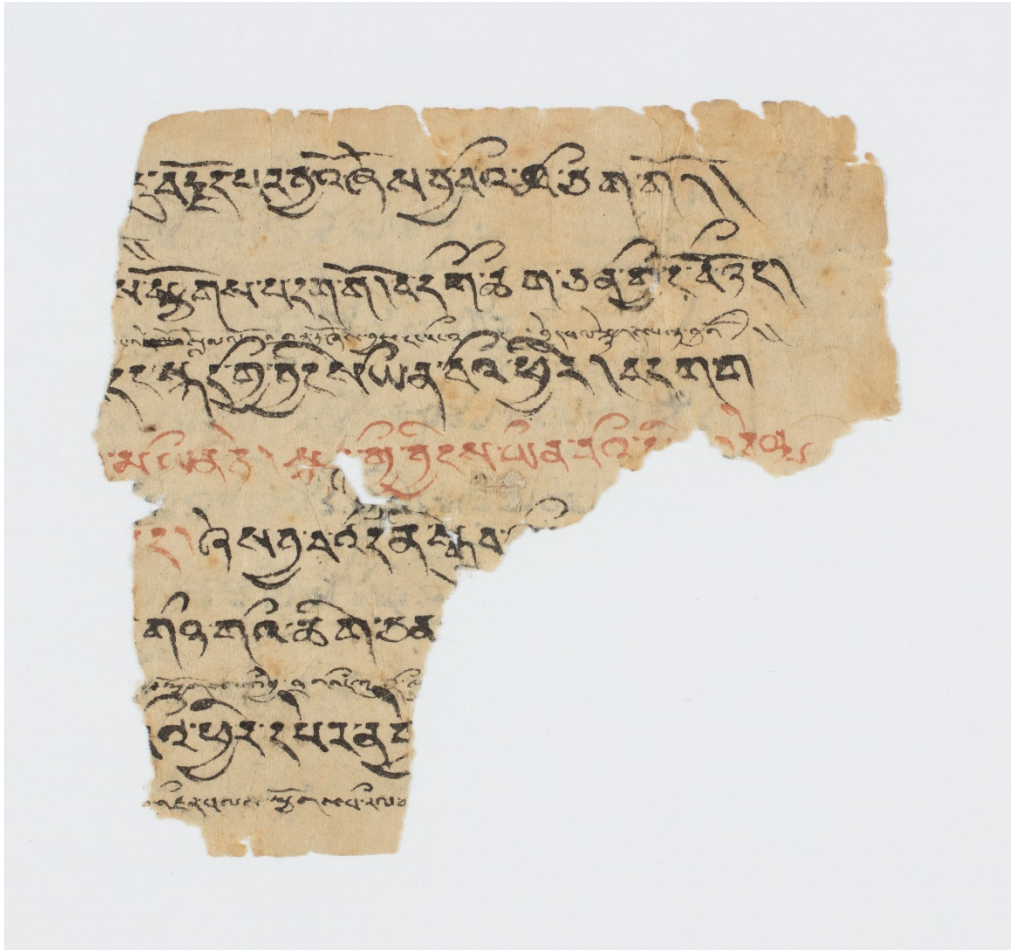
チベット訳『無量寿経』『阿弥陀経』の語彙カードである。テキストから単語を収集し、チベット語の基本文字ごとに分類し、基字を大書した袋に入れて整理されたものである。現存するのは、ja,na,waを除く27の基字である。1つの基字につき1枚から59枚のカードが入っており、総計576の語彙が記載されている。作成時期は不明であるが、青木は『大乘』に両經典の和訳を掲載しており、このカードとの関係を窺わせる。



14 大谷文書 6012

8世紀後半—10世紀 出土地不詳（吐魯番？） 写本 19.5 × 12.5 cm

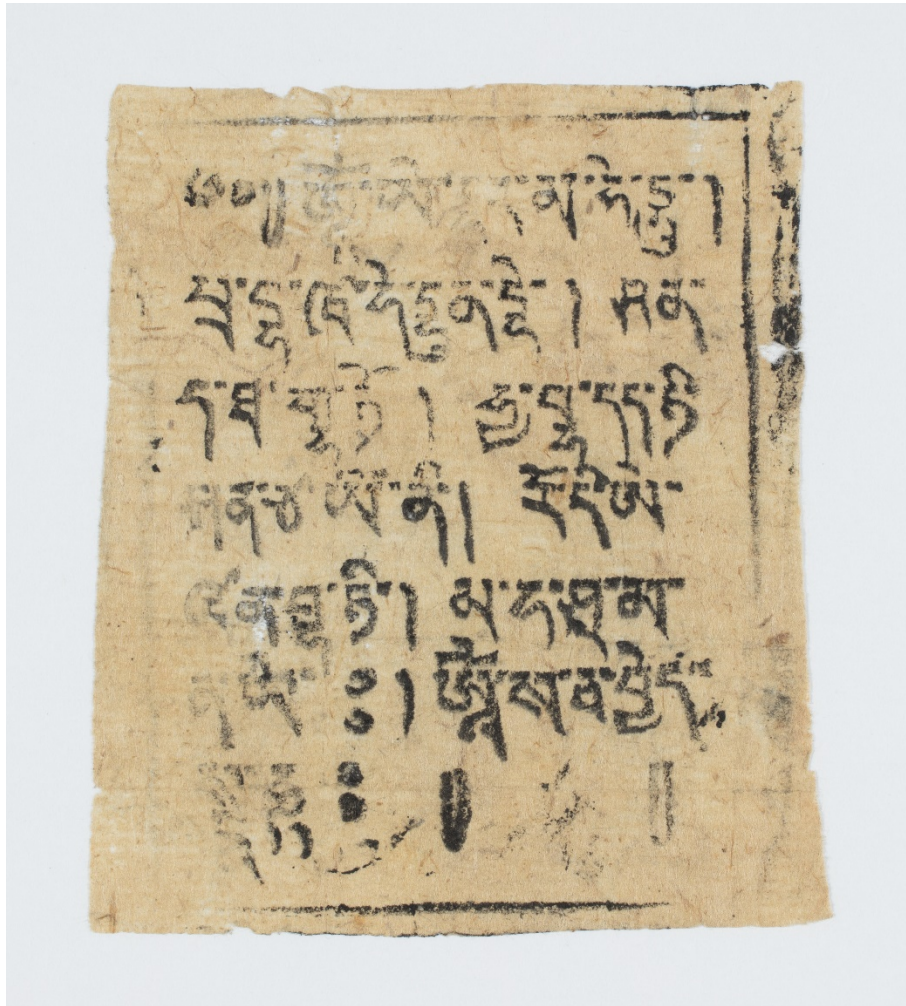
大谷探検隊が中央アジアにて発掘あるいは購入したいわゆる大谷文書の一つ。内容から契約文書の一部であることがわかる。下部の上下逆さに書かれたチベット文は借主、保証人の署名であり、テキストを囲む四角は^{かくし}画指（当人の指の長さを示して署名の代用とする）である。



15 大谷文書 6022

出土地不詳 写本 7.5× 8.0 cm

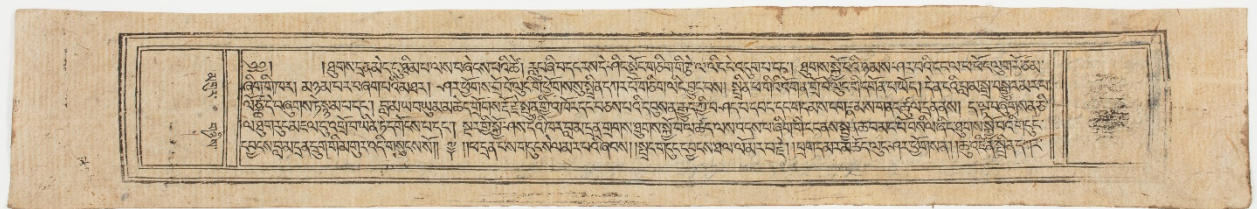
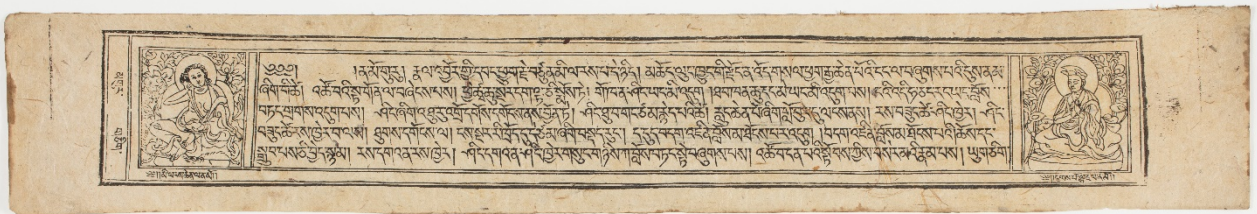
^{ばいようきょう}
貝葉經の断片で、表裏にチベット文が記される。テキストの語句から仏教に関連する内容を持つことは間違いないが、詳細は未詳である。同内容のテキストが他に7点ある（大谷文書 6015～6021）。



16 大谷文書 6068

吐峪溝出土 木版印刷 9.5× 8.2 cm

ほっしんしゃりげ
「法身舍利偈」 (Yē-dharmā-mantra)。大谷文書中には同一の内容をもつ文書が合計で44点ある(大谷文書6027~6070)。同じ木印版は大英図書館とベルリン科学アカデミーにも所蔵されていることが確認されている。C14法による紙の測定結果によると、A.D.880~1140の製作である。



17

rje btsun mi la ras pa' i rnam thar rgyas par phyed ba mgur' bum bzhugs so (ミラレパの十万歌)

1 秩 ツァンニョン・ヘールカ著 木版 9.6×58.6cm

龍谷大学所蔵青木文教師将来チベットコレクションのうちには、ペチャ（貝葉本）が37秩含まれる。基本的には蔵外文献であり、ダライ・ラマ5世の著作やダライ・ラマ6世の伝記も含まれる。展示の書はそのうちのひとつで、ツァンニョン・ヘールカ著『ミラレパの十万歌』である。ミラレパはチベットの聖者のうち最も有名な人であり、彼の伝記と『十万歌』はチベット人の間によく知られている。



18

dpal mi' i dbang po' i rtogs pa brjod pa' jig rten kun
tu dga' gtam (ポラネー伝)

1秩 ツェリンワンギャル著 木版 9.2×51.5cm

青木文教師将来チベットコレクションのペチャの一つ。18世紀前半におけるチベットの治世者として有名な **pho lha nas bsod nams stobs rgyas** (1689-1747)の伝記『ポラネー伝』 (*mi dbang rtogs brjod*) の木版本である。展覧しているのは冒頭と奥書の部分。

龍谷大学大宮図書館 2019年度特別展観

- 第67回 日本チベット学会大会記念 特別展観 -

「青木文教・多田等観 チベットに学んだ先人の足跡」

2019（令和1）年10月

編 集 龍谷大学大宮図書館

発 行 龍谷大学大宮図書館

600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125—1

電話 075-343-3311（代表）